

北京日本学研究中心学术专著

●王婉莹 著

现代日语教学基础

——为我国日语学习者

世界知识出版社

中日辞书 一册

现代日语辞书基础

——为我国日语学习者

世界图书出版公司

清华大学 985 项目

现代日语教学基础

—为我国日语学习者

現代日本語の基礎的研究
—中国人日本語学習者のために—

王婉莹 著

世界知识出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

现代日语教学基础/王婉莹著. —北京: 世界知识出版社, 2002. 10

ISBN 7-5012-1864-1

I. 现... II. 王... III. 日语—教学 IV. H369.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2002) 076013 号

责任编辑 程 立
封面设计 来 和
责任校对 王 峰
责任出版 王勇刚 赵 玥

书 名 现代日语教学基础
Xiandai Riyu Jiaoxue Jichu

出版发行 世界知识出版社
地址邮编 北京市东城区干面胡同 51 号 (100010)
电 话 65122235
经 销 新华书店
排版印刷 世界知识出版社电脑科排版 世界知识印刷厂印刷
开本印张 850 × 1168 1/32 9¼ 印张
字 数 230 千字
版次印次 2003 年 1 月第一版 2003 年 1 月第一次印刷
印 数 1—3000
定 价 17.00 元

版权所有 翻印必究

序 言

本书如书名所述，是以现代日语中的基础研究课题为对象，兼顾以汉语为母语的日语学习者、教学者的研究书籍。通过对本书的阅读，从事日语教学的人能够从日语研究方法以及以此为基础的日语教学实践中得到一些启发。同时，本书将是中上级日语学习者了解自己日语学习弱点，克服弱点掌握有效的日语学习方法的一本良好参考书。此书是以汉语为母语的日语教学工作者、日语研究者以及日语学习者的必读书籍。

尤其强调的是，关于动词教学及否定表现的教学，作者提出了具体的日语教学方案。关于行动要求表现、行动内容要求表现的分析，作者取得了一定的研究成果。关于倒置句、文末词的考察，将会有更广泛的研究课题。对于以上几点，衷心希望读者在向作者学习的同时，能够认真研讨，使之不断发展。我相信作者本人也会在此基础上，更加积极努力地从事日语研究与日语教学活动。

本书所使用的资料仅限于文献资料，值得反省。若以日语中的谈话为研究对象，作为今后的研究课题，应积极地导入对音声语言的研究。

我于1990年10月与王婉莹相识，当时她作为日语·日本文化研修生来日，在我当时任教的北海道大学学习一年。1994年4月，我调入鸣门教育大学。同年10月她作为教员研修留学生再次来日，师从于鸣门教育大学的桥本畅夫教授。其后，在鸣门教育大学大学院（硕士课程）及兵庫教育大学联合大学院（博士课程）与我一起从事研究。她常常是向高目标不断攀登。

王婉莹汇集了迄今为止的部分研究成果出版成书，值得庆贺。出版一部专著如何艰辛，只有作者本人知晓。作为与作者同行的一人，在此由衷地表示祝贺。

王婉莹刚刚起步，我坚信她会以此为出发点，更加努力工作。并衷心希望她作为一名研究者能够不断地成长。

日本·鸣门教育大学 小野米一
2002年10月

序 文

本書には、文字通り、現代日本語の基礎的な研究課題が取り上げられている。それも、中国語を母語とする学習者・教育者を念頭に置いた研究である。本書によって、日本語教育に携わる人々は、日本語の研究方法とその土台の上に立つ日本語教育の実践のために、大きなヒントを得ることができよう。また、中級・上級の日本語学習者は、自己の日本語学習上の弱点を把握し、その克服と効果的な日本語学習の方法を学ぶ上で、よき手引きを得ることができよう。中国語を母語とする日本語教育者・日本語研究者にも、また日本語学習者にも、ぜひ読んでいただきたい書物である。

特に、次の点を強調したい。動詞教育及び否定表現についての教育に関しては、日本語教育実践のための具体的提案がなされている。行動要求表現・行動内容要求表現についての分析には、一定の研究成果を認めることができる。倒置文・文末詞についての考察は、発展的課題を多く含んでいる。こうした点については、著者に学ぶとともに、読者も吟味検討を加えて、更に発展させていきたい。王さん自身も、こ

の研究を踏まえて、いっそう意欲的な日本語研究と日本語教育の実践活動に努力を重ねてくれるものと思う。

ただ、本書においては、利用した資料が文献資料に限られている点を反省しなくてはならない。日本語の話しことばを対象として研究する以上、音声言語を積極的に取り上げるべきである。それは今後の課題である。

私が王婉莹さんに出会ったのは、1990年10月である。王さんは日本語・日本文化研修生として来日し、当時北海道大学に勤めていた私のもとで1年間勉強した。その後、1994年4月に私は鳴門教育大学へ転じたが、そこへ橋本暢夫教授が指導教官となって、同年10月に王さんは研究生として再来日した。その縁で、鳴門教育大学大学院（修士課程）及び兵庫教育大学連合大学院（博士課程）で、私がいっしょに研究への道を歩むことになった。王さんは常に前進を目指す努力家である。

その王婉莹さんが、これまでの研究成果の一部をとりまとめて新著を出版なさる。喜ばしい限りである。1冊の書物を出版するということがいかに大変なことか、著者自身が一番よく知っている。かたわらに付き添って歩みを共に生きてきた一人として、心からお祝いを申し上げたい。

王婉莹さんは、歩き始めたばかりである。ここを出発点として、これからいい仕事を積み重ねていくであろうことを確信している。私は、王さんが、一人の研究者として大きく育っていつてくれることを心から願っている。

2002年10月

日本・鳴門教育大学 小野光一

前言兼本文的中文概要

21 世纪的语言学习与教学更加注重语言交际能力的培养。本书以『现代日语教学基础—为我国日语学习者—』为题，全书共分为 2 部 11 章。第 1 部是针对我国日语学习者的基础研究，第 2 部从语言交际角度对日语要求表现进行了考察。

第 1 部对我国日语学习者的基础研究共分 6 章，考察了日语听说、句子结构、文末词、否定表现和动词等学习项目。在这一部里，笔者对我国外语教学中日语的位置、学生的日语学习、教科书及异文化教育进行了综合的评述，针对我国 1972 年中日邦交正常化后，日语研究主要集中于语言、文学、社会及文化方面的现象，从日语教育、日语教学法角度阐明了日本语基础研究的特殊意义。日语听说学习的教学方法，日语口语中句子的分析，包括「倒置」「省略」等，日语文末词与汉语语气词的对应关系及学习注意事项。同时，针对否定学习，笔者提出了「绝对否定表现」及「相对否定表现」的概念，指出日语「～ていない」「～なかった」、日语否定形式惯用表现「～にちがいない」「～てならない」「～てたまらない」「～かねない」、疑问句否定表现学习的重要性。对以

「分野別動詞（不同领域动词）」「ある・いる」「なる・する」为代表的动词学习与教学提出独到的见解，即：「纵1教育」「纵2教育」「横向教育」「纵横教育」等新的教学与学习方法。

第2部从语言交际角度对日语要求表现进行了考察。首先纵观中日两国语言中的要求表现，确定本研究中要求表现的内涵。日本国立国语研究所（1963）认为要求表现是「質問文（提问句）」「命令文（命令句）」的总称，日本语教育学会（1982）则把「要求表现」分为「命令の表現」「禁止の表現」「依頼の表現」。笔者经过仔细考察，把「要求表现」划分为「回答要求表现—質問文（提问句）」，「行動要求表現—命令文（命令句）、依頼文（依赖句）、勧誘文（劝诱句）」，「行動内容要求表現—使役文（使役句）」以及由语用形成的要求表现4种形式。在对现行几种教科书进行考察后，重点对表示「行动要求表现」的「～て」句・「～たら」句，「行动内容要求表现」的「せる・させる」「～てもらう」「～ように言う」加以考察。尤其对后者，得出如下结论：（a）日语学习者学习「せる・させる」「～てもらう」时，行动主体动作的实现成为学习成败的关键；（b）阐明汉语「要求动词」与日语「～てもらう，～ように言う」的对应关系，并得出日语的间接性，潜在性和对他人的顾虑成为日语学习的一大难点。

值此出版之际，对我的博士课程指导教官日本国鸣门教育大学小野米一教授热心恳切的指导和谆谆教诲，对在留学过程中给予我关心备至的日本国德岛文理大学桥本畅夫教授（原鸣门教育大学教授），以及在学习等方面给予我各种指导、帮助的各位先生、同事们表示衷心的感谢。同时感谢接纳我做客座研究员的北京日本学研究中心将我的专著列入北京日本学研

究中心系列学术专著之一。另外，我还要感谢清华大学人文社会科学学院出版基金、清华大学外语系、国家留学回国启动基金以及世界知识出版社编辑同志在本书的出版过程中给予的大力支持。

王婉莹

2002 年 10 月于北京

目 次

序言

前言兼本文的中文概要

序 論	1
第1章 研究の目的	2
第2章 研究の方法	6
第3章 論文の構成	10
第4章 研究の範囲と用語の定義	14
第1節 研究の範囲	14
第2節 用語の定義	15

第1部 中国人日本語学習者のための 現代日本語の基礎的研究	23
第1部的中文概要	25
第1章 中国人日本語学習者と日本語教育	27

第1節 中国人日本語学習者の日本語学習	27
第2節 日本語教育と関連のある先行研究	31
第3節 本研究の基本的な立場	33
第1項 具体的な教授方法	33
第2項 対照研究による日本語教育へのヒント ...	34
第2章 聞くこと・話すことの教育	37
第1節 聞くことの教育	38
第1項 教材（聞く材料）	38
第2項 教授方法	39
第3項 事例に基づいた具体的な教授方法	41
第2節 話すことの教育	45
第1項 話すことの教育の重要性	45
第2項 機械練習	46
第3項 実用練習	47
第4項 事例に基づいた具体的な教授方法	48
第3節 聞くこと・話すことの教育の意義	51
第3章 日本語の構文についての教育.....	53
第1節 日本語の話し言葉とは何か	53
第1項 話し言葉と書き言葉	53
第2項 「談話」「会話」「ディスコース」など ...	55
第2節 文の実際	56
第3節 陳述とモダリティ	58
第1項 陳述とは	58
第2項 モダリティとは	60
第3項 陳述とモダリティとの関係	61
第4節 文の定義・認定・特色	62
第1項 文の定義	62

第2項 文の認定	63
第3項 文の特色	63
第5節 「倒置文」についての検討	64
第1項 先行研究	65
第2項 連文から見た「倒置文」	67
第6節 話し言葉における文の下位分類	77
第1項 分類基準	77
第2項 具体的な検討	78
第3項 下位分類	86
第4項 日本語教育へのヒント	87
第4章 「文末詞」についての教育	94
第1節 先行研究	94
第2節 「文末詞」とは	95
第1項 「終助詞」と「文末詞」	95
第2項 「終助詞」という言い方の欠点	96
第3項 「文末詞」という言い方の合理性	102
第3節 「文末詞」に関わる表現	105
第1項 先行研究の分類	105
第2項 「文末詞」の下位分類	108
第4節 中国語の「語気詞」	113
第1項 「語気詞」について	113
第2項 「文末詞」と「語気詞」との対応関係	115
第5節 日本語教育における扱い	117
第5章 日本語の否定表現についての教育 ...	122
第1節 先行研究	123
第2節 中国人日本語学習者の否定表現習得上の	

問題点	124
第3節 用例分析から見た日中両言語の否定表現	125
第1項 否定表現の分類	125
第2項 絶対的な否定表現	126
第3項 相対的な否定表現	132
第4節 日本語教育への適応	135
第1項 日本語学習上の問題点	135
第2項 教科書での並べ方と問題点	136
第3項 否定表現の学習体系	138
第6章 日本語の動詞についての教育	141
第1節 中国における日本語動詞教育の現状	141
第2節 動詞の誤用の分析	143
第3節 動詞教授法の対策	147
第1項 分野別動詞	148
第2項 「ある・いる」	150
第3項 「なる・する」	151
第2部 要求表現形式の分析	155
第2部的中文概要	157
第1章 要求表現についての概観と問題提起	159
第1節 日本語の要求表現	159
第1項 要求表現とは	159
第2項 要求表現の位置づけ	161
第3項 要求表現のストラテジー	166
第2節 中国語の要求表現	175

目 次

第1項 兼語式	175
第2項 語気	176
第3項 高名凱の論	177
第4項 要求表現の位置づけ	180
第3節 問題提起	181
第2章 要求表現と考察範囲	183
第1節 要求表現	183
第1項 日本語の要求表現について	183
第2項 日本語の要求表現の下位分類	189
第3項 中国語の要求表現の下位分類	195
第4項 本研究における要求表現の範囲	198
第2節 本研究の考察範囲	199
第1項 行動要求表現—「探して。」	199
第2項 行動内容要求表現—「せる・させる」 「～てもらう」「～ように言う」	199
第3章 中国人の日本語学習についての分析	202
第1節 日本語学習者に難しく感じられる要求表現 の項目	202
第1項 行動要求表現	202
第2項 行動内容要求表現	203
第3項 まとめ	204
第2節 中国における日本語教育現場での とらえ方	204
第1項 「省略」—「～て」文、「～たら」文	204
第2項 行動内容要求表現	206

第3節 本研究との結びつき	212
第4章 行動要求表現—「探して。」	213
第1節 「探して。」についての検討	213
第1項 「省略」—「～て」文、「～たら」文	213
第2項 機能から見た「探して。」	216
第2節 日本語の「省略文」	220
第1項 従来の見解	220
第2項 日本語の話し言葉には「省略」 があるか	221
第3節 中国語との対照	224
第4節 日本語教育における扱い	226
第5章 行動内容要求表現—「せる・させる」 「～てもらう」「～ように言う」	228
第1節 先行研究	228
第2節 日本語の「行動内容要求表現」	229
第3節 中国語兼語式構文中の動詞	230
第1項 他力動詞	230
第2項 要求動詞	231
第4節 「せる・させる」「～てもらう」「～ように 言う」と「要求動詞」	233
第1項 「せる・させる」と「要求動詞」、「要求 動詞」と「せる・させる」が対応する場合	234
第2項 日本語の「せる・させる」を中国語では 他の表現で表している場合	235
第3項 中国語の「要求動詞」を、日本語では	